

医学部

検査技術科学プログラム ■広い視野を持つ臨床検査技師養成

取得できる学位 ★学士（保健学）

■ プログラムの概要

本プログラムは臨床検査科学領域の人材育成のための教育プログラムである。臨床検査技師養成を基盤とし、さらには医療、製薬、食品など関連分野で活躍するために、生命科学、基礎医学、および臨床医学について講義・実習を通じて学習を深めることができる。

■ 人材育成目標

プログラムでは、臨床検査科学領域および生命科学関連分野で活躍できる以下のような資質を有する人材育成を目指している。

- ・臨床検査科学に関わる医療人としての豊かな人間性やチーム医療の一員にふさわしい知性、教養、および倫理を有する人材
- ・生命科学、基礎医学、臨床医学の基礎的知識を有する人材
- ・臨床検査学を基盤とし、自ら知識と技術を習熟・発展させることで、技術改革・進歩に対応できる能力を有する人材
- ・高度専門技術に精通し、指導的役割を担い得る能力を有する人材
- ・自ら課題を探究し、解決、発表する能力を有する人材

■ プログラムの到達目標（期待される学修成果）

| 1 | 知識・理解

- a) 生命科学、医学、保健・医療に関する知識を身につける。
- b) 人体の構造や機能、代謝について系統的に理解する。
- c) 組織・細胞の形態や機能について系統的に理解する。
- d) 生体の成分や遺伝子の機能について系統的に理解する。
- e) 免疫の仕組みと生体防御に関する知識を身につける。
- f) 検査に関する情報処理、統計処理の方法を理解する。

| 2 | 当該分野固有の能力

- a) 人体組織・細胞の構造とその病気による変化を解析できる。
- b) 人体の化学成分や遺伝子とその病気による変化を解析できる。
- c) 血液の働きや免疫機能とその病気による変化を解析できる。
- d) 病原微生物の取り扱いと同定の技術を有する。
- e) 人体の生理機能とその病気による変化を解析できる。
- f) 医療機器、検査機器のしくみを知り正しく操作できる

| 3 | 汎用的能力

- a) 臨床検査に関する英語の文献を読み、簡単な英会話ができる。
- b) 問題解決のために必要な情報を収集し、活用できる。
- c) 実験・実習や観察によって得たデータを正しい手法で解析できる。
- d) 実験・実習の記録やデータを取りまとめ、報告・発表できる。

| 4 | 態度・姿勢

- a) 臨床検査の意義を理解し、正確で迅速な検査ができる。
- b) 被験者や他の医療職者と十分な意思疎通ができる。
- c) スタンダードプリコーションの基礎が身についている。
- d) データの保守や個人情報の保守ができる。

■ プログラムの履修要件

- ・本プログラムは、臨床検査技師国家資格の取得に必要な教育を基盤として構成されている。
- したがって、臨床検査技師の資格や仕事をよく理解して入学することが望まれる。
- ・物質の分析や生命現象の解析に関する授業が多く含まれているので、高等学校において、物理、化学、生物のうち2科目以上履修していることが望まれる。

■ カリキュラム立案と学修方法についての基本方針

- ・本カリキュラムは豊かな教養と生命科学、医学などの専門知識・技術を身に付け、医療および関連分野で実践力を備えた「広い視野を持つ臨床検査技師」を養成することを主な教育デザインとして編成されている。
- ・豊かな教養と倫理の育成を目的として、外国語科目、自然科学系科目、人文・社会科学系科目など31単位以上を教養科目として課している。
- ・専門基礎科目や専門科目は臨床検査技師国家試験科目に準拠した構成としている。
- ・生命科学、基礎医学から臨床医学におよぶ幅広い知識と技術を修得するため、学内で各種の臨床検査演習・実習科目を課している。
- ・医療機関での臨地実習により、医療人としての自覚を持ち、医療現場で医療職者や被験者との良好なコミュニケーションがとれる能力の育成を行っている。
- ・卒業研究を通じて探究力、問題解決能力、研究成果を発表する能力を修得できるプログラム内容になっている。